

医師と医師会を結ぶ情報紙

令和8年2月15日／毎月1回15日発行

都医

ニュース

NEWS

Vol.
720

発行所 ■ 公益社団法人 東京都医師会 〒101-8328 千代田区神田駿河台2-5 TEL. 03-3294-8821(代) 定価 ■ 1部 77円

新興感染症に関する研修会	01
底流／地区医師会長連絡協議会報告 ほか	02
みどりの広場 ほか	03
ふれあいポスト	04
感染症豆知識 ほか	05
地区医師会長からの一言	06



梅とメジロ

撮影：大畑隆郎（板橋区医師会）

新興感染症に関する研修会

臨時医療施設の有用性を学び、 個人防護具(PPE)の着脱訓練も



個人防護具 着脱訓練の様子

1月17日（土）、世田谷区にあるホスピタリティ玉川にて新興感染症に関する研修会が開催された。当該施設に関わる医療従事者を中心に、都内の病

院・クリニックから多職種約40名が参加し、世田谷区医師会および玉川医師会からは、会長をはじめ役員の先生方が参加した。



土谷副会長

はじめに、東京都医師会の土谷明男副会長より開会の挨拶があった。新型コロナウイルス感染症は2019年に始まり、世界では約10年ごとに新たな感染症の流行が繰り返されている。既にコロナ禍から6年が経過した今、次の新興感染症流行に備えた準備の重要性が強調された。東京都の対応は評価しつつも、起



小平理事

きた事象への後追い対応であった側面は否めず、平時からの備えが不可欠であるとの呼びかけがなされた。

本研修は座学と実地訓練の2部構成で行われた。第1部では、東京都医師会の大坪由里子理事より「臨時医療施設の必要性」と題した講演が行われた。感染症や災害など有事の際には、医療需要が急激に高まり、人的資源の不足や通常医療の停滞を招く恐れがある。軽症者や経過観察・隔離が必要な患者を受け入れる場として、臨時医療施設は重要なサージャパンティとなる。本場に重症の患者が適切な医療を受けられる体制を守り、災害関連死を防ぐためにも臨時医療施設は不可欠であると述べ、平時には多職種の訓練施設として活用し、有事には状況に応じて迅速に転用できる体制を整えておく必要性が示された。

続いて、東京都医師会の小平祐造理事より「臨時の医療施設の実例ーCOVID-19パンデミックにおける東京都での対応ー」について講演があった。東京都がコロナ禍で開設した宿泊療養施設、酸素・医療提供ステーション、高齢者等医療支援型施設の具体的な実績が紹介された。特に高齢者等医療支援型施設は、臨時医療施設の最終形態であり、その立ち上げや組織、特徴が報告された。感染区域内で積極的にリハビリを行い、退所時にADLが改善したという特徴的なデータも示された。平時から臨時医療施設を運営し、準備と訓練を行うことの大切さが強調された。



大坪理事

第2部では、東京北医療センター・花と森の東京病院の感染管理認定看護師の指導のもと、個人防護具(PPE)の着脱訓練が行われた。参加者は3グループに分かれ、熱心に取り組み、実践的で活気ある研修となった。

最後に土谷副会長より閉会の挨拶があり、本研修は今後の感染症対応力向上につながる、実り多い機会であったと総括した。次回は2月14日（土）に開催を予定している。

底流

AIとともに進化する診療を夢見て

—この素晴らしい能力の高い同胞と力をあわせて更なる高みを目指して—

職人芸の要素が強い消化器内視鏡分野において、生成AIを活用する。

すでに諸先生方においては、生成AIを論文作成や文献検索、情報収集に多用されているとお察しする。

ChatGPTをはじめとする生成AIの進歩・普及は目覚ましく、甚だ特に「AIに人間の仕事を奪われる可

能性が話題にのぼっている。自分の専門領域である消化器内視鏡分野でもAIの進歩は目覚ましく、私も興味本位でかなり早い時期から自院で採用し、その実力を確認してきた。その結果「何て楽しいだろう!」という印象をも

させた生成AIの診断能力の高さは予想されていたが、開発段階のデータをみると、きちんと描出された画像についての病変の検出能力や診断精度の高さは、内視鏡専門医を集めた試験でもAIがトップクラスに位置するのは間違いないところだ。ただAIは画面に映った画像をみて意見を行う以外のことは一切してくれない。死角の無いようにきちんと観察し病変を描出する、ピントのあったズームアップをするなど、(AI様が仕事をしやすいように)内視鏡を操作するのは人間医師の技量の見せ所だ。

かねてから内視鏡の技を

極めるという意味では「陶芸の世界に近い」ものがあると感じていた。日々の自分の仕事のパフォーマンスについて自己採点を行い、満足と反省の繰り返しとなるが、生成AIの参加により安心と対話を味わっている。

確かに内視鏡医に求められるものは「集中力、ハンドリング、診断力、スピード、動体視力」と多岐にわたる。「生成AIの進歩とともに自分の進化や診察の質の向上を実感できること」を確信し、その恩恵は医療機関を受診される方のみならず、そこで働く全員の注ぎを感じている。

(増田幹生)

地区医師会長連絡協議会報告

令和8年1月16日(金)

◎都医からの伝達事項

(1) 令和7年度東京都麻しん・風しん対策講習会の開催について

標記講習会を2月28日(土)午後2時よりオンラインにて開催する。医師、看護師等医療従事者の方々に多数ご参加いただきたいので周知をお願いした。

◎地区医師会からの報告

(1) 中央ブロック

①MICC第3回抗がん剤講習会について (港区医師会)
②区中央部糖尿病医療連携検討会 市民講座・医療従事者対象研修会について (港区医師会)

(2) 城東ブロック
(3) 城西ブロック

東京都医師会 定例記者会見

1月13日(火)開催



尾崎会長

尾崎治夫会長は、年頭所感で掲げた2026年に東京都医師会が目指す3つの柱を改めて紹介した。第1に、地域

- (4) 城南ブロック
 - (5) 城北ブロック
 - (6) 多摩ブロック
 - (7) 大学ブロック
- ◎出席者による意見交換
- ①医療費助成のオンライン資



西田理事

格確認に関する助成金の一部終了について (墨田区医師会)

令和7年度からつけ医機能情報定期報告について

包括ケアネットワークの更なる充実、独居高齢者を孤立させぬよう地域医療・介護体制を整備すること。第2に、救急医療と災害への対応強化として、高齢者救急の増加を背景に在宅医療体制の拡充、並びに脳卒中や心疾患など命に関わる疾患への迅速な救命体制構築の推進を挙げた。また、都と

連携して災害関連死防止体制を整備していくと語った。第3に、75歳まで誰もが健康に働ける社会を目指す予防医療の推進に、長期的に取り組んでいくと述べた。

続いて西田伸一理事は、2035年には団塊世代が85歳を迎え、ますます高齢化が進むことを踏まえて柱の第1について改めて解説した。健康寿命の延伸と社会保障負担の軽減を目指し、疾病治療中心の医療だけでなく、医療・介護・福祉・行政の協働による「治し支える医療」の体制を

地域で整備する必要がある。また、東京都在宅医療推進強化事業(令和8年度から区市町村事業に移行)により地域差が生じないよう、24時間見守り体制やデジタル機器を活用した支援の推進を図る。医療・介護人材の育成と定着、行政との連携強化、災害時にも対応可能な地域医療体制の確立など、東京都医師会が地域包括ケアネットワーク構築のための諸課題に全力で取り組む姿勢を示し結んだ。

令和7年 東京都医師会 役員就任披露並びに年末懇親会



214
みどりの
広場救命救急医を志す理由
―現場で揺らいだ決意と覚悟―

公立豊岡病院組合立豊岡病院 研修医一年目

山根綾海



私は現在、研修医一年目として臨床の現場に立ち、将来は救命救急医を志している。

深く関わり、支えることで、できる医師になりたいと考えているようになった。

私が救命救急医を志した理由は、年齢や背景、疾患に関わらず生命の危機に瀕した患者と最前線で向き合い、命を救う役割を担いたいと思ったからである。救命救急の現場では、一瞬の判断が患者の予後を左右する。限られた情報の中で決断を迫られ、結果が即座に突きつけられる厳しさがある。また常に緊張感が伴

い、肉体的にも精神的にも過酷な環境であるが、それでも大きなやりがいがあると信じていた。救急外来での診療は、時に想像以上に重く、息をつく暇もないまま次の患者が搬送されてくることも少なくない。その現実を前に、自分の無力さと向き合うこともある。実際に救急外来で診療に携わる中で、私の医師像は大きく揺らいだ。

ある夜、心肺停止状態で搬送された患者の蘇生に立ち会った。必死に胸骨圧迫を続けながら次の行動を考えたが、自分の判断に確信を持つことはできず、焦りだけが募っていった。上級医の指示のもと処置を進めたものの、最終的に死亡確認となった。処置後、突然大切な家族を失った遺族への説明の場に同席したが、かける言葉も見つからず立ち尽くすことしかできなかった。医師になれば命を救えると思っていた自分の無力さを、否応なく突きつけられた瞬間であった。

救命救急の現場では、結果だけが強く印象に残りがちである。しかし私は、その結果に至るまでに何を考え、どのような判断を重ねたのかを振り返ることこそが、次の一人を救う力になると感じている。救えなかった命と向き合い続けることは苦しいが、その重みから目を背けず、医療の限界を直視し続ける姿勢こそが、医師としての責任だと思ふ。それでも治療によって回復し家族が安堵の表情を浮かべる姿を見ると、この仕事の持つ意味を強く実感する。たとえすべての命を救えなくとも、迷い葛藤しながら最善を尽くし続ける。その積み重ねの先に歩みを進めている。

私は今、一つひとつの経験を胸に刻みながら、揺らぎの中で覚悟を新たにし、医師としての責任を強く意識しながら歩みを進めている。



公園内の湿地帯

尾久の原公園
区民の憩いの場

趣味の散歩

池をはじめとする湿地帯は移転後に放置された空き地に雨水が溜まって出来たもので、地元自然保護団体の活動により、自然環境が残された

公園ホームページ
<https://tokyo-eastpark.com/parksearch/oginohara>
「公園文化WEB」
<https://www.midori-hanabunka.jp>

医師国保からのお知らせ

医師国保では組合員の健康保持増進のためのさまざまな保健事業を行っています。

- 特定健診・特定保健指導の実施（従業員や家族の自家健診が可能です）
- 人間ドック等健診費用の助成
- 乳がん検診費用の助成（乳房エコーの他、マンモグラフィーも助成の対象となりました）
- 脳血管健康診断（脳ドック）費用の助成
- 保養施設・レジャー施設等の利用に際しての助成や優待

詳しい内容、申請方法等は当組合ホームページをご覧ください
www.tokyo-ishikokuho.or.jp

東京都医師国民健康保険組合

☎ 03-3270-6431（総務課）

都医ニュース2号(昭和36年2月発行)をお持ちの方はご一報ください

東京都医師会 広報学術課 ☎ 03-3294-8821

中野区医師会

鶴田晋佑

子供達との体験じまん

医業を行いながら子育てするのは、本当に大変です。そのため私は大変さの解決方法として、苦難を幸せと感じるスイッチを入れるようにしています。

子育ては楽しいと思い込めるよう、今回は子供との出来事をじまん話とさせて頂きたいと思います。

長女（小学生）は人を笑わせるのが大好きな子供です。

何がそんなに楽しいのか分かりませんが、いつも明るいです。特に最近は物真似にはまっており、『埴輪』が大好きです。あの埴輪の笑っているのか無表情なのか微妙な顔を真似るのが得意で、物真似した娘を見た後に埴輪を見ると、埴輪が娘の真似をしているようで笑いが止まらなくなります。

また複雑なルール作りも好きです。例えば中野駅北口のエスカレーター下に黄色の巨大壁画があるのですが、その猫と犬と毎朝話しています。イッテラという猫とシャイワンという犬の名前で毎朝見送りしてくれているという設定です。「行ってくるね、大好きだよ！」など忙しい朝に壁に向かって話をしています。私は朝が弱く抑うつ状態のため、このような純粋な娘と一緒にいると気持ちが楽になっていきます。

長男（幼稚園）はザ内弁慶で怖がりです。

先日お台場のイマーシブフォートという元ビーナスフォートの建物で、建物全体が観客参加型の劇場に遊びに行きました。最初は偉

そうにしていた息子ですが、館内放送が流れ、「緊急事態です！ゾンビが逃げ出しました！」とゾンビがあちこちに出始めると、「ばば！怖い！逃げて！！早く！ゾンビが来た！！」と会場内で一番声を張り悲鳴を上げて泣いていました。わざと抱っこしながら間違えたふりをしてゾンビに近寄ると、「いやー！！やめてー！」と発狂していました。

笑いが止まらずとても可愛くて長男との一番の思い出になりました。それ以降はスーパーでも館内放送が流れると「ゾンビが来る！」と怖がるようになりましたが。

そんな二人はいつも喧嘩しているか恋人のように仲良くしており、お騒がせの毎日です。おもちゃを買うなら必ず二つ、特に弟は姉が大好きで常に同じことをしてほしいそうです。お似合いすぎる姉弟です。

知らない世界を子供と一緒に色々体験することができていますので、2度目の人生を送らせてもらっている感じです。サンリオピューロランドなどキラキラした場所にも行かせてもらい楽しませてもらっています。これからも子供達を理由に私自身が色々な経験ができれば嬉しいです。

子育ては当直のような毎日ですが、大変だけどもきっと今が一番幸せなんだろうなと変換スイッチを入れながらこれからも頑張りたいと思います。

（「医師会新聞」2025年7月 No.697より抜粋）

中野区医師会

山岸千尋

ぶたみみたぶ

幼いころ、寝る前に母に絵本やむかしばなしの読み聞かせをしてもらったことをよく覚えています。自分が母になって、息子にも絵本の読み聞かせをしていました。その息子も昨年成人しました。そのころ集めた絵本を今ではクリニックの待合室で患者さんたちが読んでいてくれます。

絵本は、美しく楽しい絵を見て楽しむ、テンポの良い文章を楽しむ、「ページをめくる」ワクワク感を楽しむエンターテインメントです。その魅力にひかれ、2017年に「StuDioえ・ほ・ん」という絵本の制作・研究グループに参加し、毎年開催される絵本展に展示でき

るようにと細々と絵本製作をしています。

なんとなくそこらへんの紙に落書きをすることがよくあります。あるときかわいいブタの写真をみながら、絵を描いていました。大きなお耳にイヤリングでもつけてあげようかしら、と思っていたら、とつぜん「ぶたみみたぶ」が降ってきました。あら、回文、おもしろい！から始まって、いろいろな回文を思いつき、絵本にしてみました。案内役は、幼いころの息子と我が家の愛犬ジャックです。

（「医師会新聞」2024年1・2月 No.679・680より抜粋）



無声拝聴

現地でショパン国際ピアノコンクールを聴いて

私は2025年10月、ポーランドのワルシャワに赴き、第19回ショパン国際ピアノコンクールを現地で実際に聴く機会を得た。

ショパンコンクールは、世界最古の音楽コンクールの一つで、すべての課題曲がショパンの作品で構成され、5年に1度開催される。世界には数多くのコンクールがあるが、少なくとも日本においては抜群の知名度を誇り、入賞者のコンサートチケットは多くが入手困難となる。

現地を訪れると、高揚感に満ちたお祭りのような雰囲気、会場や街全体が大いに盛り上がっていた。演奏はリアルタイムおよびオンデマンドで全世界に無料配信された。日本からは桑原志織さんと進藤実優さんがファイナリストに選出され、桑原さんが第4位を獲得された。

実際に現地で聴いた世界最高のコンクールでファイナリストに残るようなトップレベルの演奏は、総じて本心に素晴らし、優秀をつけられるものではないと強く感じた（実際にコンクール後に公開された審査員の点数をみると、評価のバラツキが大きいことが分かる）。

審査員の評価は何を重視するかに左右され、点数や順位は、本来順位をつけられない芸術に對し、便宜的に点数と順位をつけているに過ぎないと感じられた。曖昧でどうしても主観的にならざるを得ない審査で順位が決まり、それによってメディアでの取り上げられ方が大きく異なる現状は、やや奇妙にも感じられた。

とはいえ、夢の舞台を目指し、計り知れない努力と練習を積み、ショパンコンクールの舞台に立つ参加者の演奏を聴けたこと

いうのは、私にとっても幸せで貴重な経験であった。審査で上のステージに進むためには、技術だけでなく個性と演奏の説得力が重要だと感じた。これほど自由な演奏が、ショパンコンクールで評価されるのだという一種の驚きのようなものもあった。

ショパンコンクールは、クラシック音楽が広く注目される大会であり、これは希有なイベントである。ただ、順位はあくまで絶対的なものではなく、評価者により容易に変わってしまうのだろう。世間で良いとされる演奏を聴いて審美眼を高めるのも重要かもしれないが、ご自身で「これは」と思うお気に入りの演奏家を見つけたらなら、ぜひご自身の聞き手としての感性を信じ、その音楽を応援していただきたいと思う。

（木山信明）

小児への新型コロナワクチン接種の考え方

2025年11月、日本小児科学会のホームページにおいて、「2025/26シーズンの小児への新型コロナワクチン接種に対する考え方」が発表されました。

生後6カ月から17歳までの小児において、基礎疾患のあるお子さんへの接種は引き続き推奨されています。一方で、基礎疾患のないお子さんへのワクチン接種については、最終的な判断は保護者の方に委ねられています。かかりつけ小児科医として日本小児科学会公表の文章を元に、最新の情報も加え、その判断の一助となる情報をお伝えしたいと考えます。

特に未感染・未接種で、免疫が十分に備わっていないお子さんですが、未就学児（特に4歳以下）は抗体保有率が低く、自然感染による免疫が十分でないことが調査で示され、2024年の調査では、月齢が低い（6～17カ月）ほど抗体保有率は下がり、抗N抗体保有率26.8%、抗S抗体保有率36.4%でした。未感染・未接種のお子さんは、新型コロナウイルスに免疫のないナイーブ（丸腰）な状態と言えます。

また熱性けいれんの既往があるお子さん、特に日本を含むアジアの国々では、熱性けいれんの発生率が欧米諸国より高いことが報告されています。さらに感染後の後遺症など、将来的な健康への影響があるとの報告が増えていることを踏まえ、基礎疾患のないお子さんにおいても、新型コロナワクチン接種についてご検討いただく意義があると考えます。

（文責：時田章史）

感染症豆知識

東京都医師会
感染症予防検討委員会

都医からのお知らせ

INFORMATION

東京慈恵会医科大学附属病院医療連携フォーラム
揺らぐ医療の経済基盤 ―今こそ経営を変える勇気を―
制度・政策・現場の三視点で考える、医療の持続可能性

問合先

東京慈恵会医科大学附属病院 東京都港区西新橋3-19-18
患者支援・医療連携センター 医療連携室
TEL: 03-5400-1202 (直通) FAX: 03-5401-1879

日時

3月12日(木) 講演会 19時～ 懇親会 20時 10分～

形式

現地およびWEB

会場

講演会：大学1号館3階講堂、懇親会：2号館1階講堂(予定)

講演

①「医療機関の経営実態と課題ー令和7年診療所の緊急経営調査よりー」江口成美(日本医師会総合政策研究機構 主席研究員)
②「人的及び物的資源投入、そして生産性の観点から医療をとらえる」河原和夫(大久野病院・介護医療院 理事・院長 東京科学大学名誉教授)
③「～企業経営からの提言～ 正解がない時代の経営手法」渡瀬ひろみ(㈱アーレア代表取締役、学校法人慈恵大学理事)

申込方法

右記2次元コードよりお申し込みください

取得単位

日医生涯教育制度1単位(CC：12) 予定

2026年度 慈恵医大月例セミナー
(日本医師会生涯教育講座)

問合先

東京慈恵会医科大学生涯学習センター
または慈恵医師会
TEL: 03-3433-111 (大代表 内線：2634・2636)

会場

東京慈恵会医科大学附属病院 中央棟会議室(8階)

時間

16時～18時 ※一部変更する場合があります

開催日・内容

第272回 4月11日(土)
「知っているようで知らない骨と筋肉の話」越智小枝(中央検査部) 16時～17時／「患者さんの食事と運動どうみですか」鈴木 慎(リハビリテーション科) 17時～18時
第273回 6月13日(土)
「心房細動ー最も身近で最も見過ごせない不整脈ー」徳田道史(循環器内科) 16時～17時／「心不全についてー心肥大症例へのアプローチと潜在する心アミロイドーシスー」柏木雄介(循環器内科) 17時～18時
第274回 11月14日(土)
「睡眠時無呼吸症候群のいま」齊藤吉紀(耳鼻咽喉・頭頸部外科) 16時～17時／「女性の下部尿路症状と治療について」本田真理子(泌尿器科) 17時～18時

知ってますか？

CRISPR

CRISPR(クリスパー)は、特定のDNA配列を狙って切断し、遺伝子の機能を改変する技術である。この技術を応用して、生まれつき代謝異常で致死性だった患者(CPS1欠損症の乳児)に対し、不具合が生じた遺伝子を特定してその遺伝子を個別に修復、正常な代謝機能を獲得して病気から解放した。

医師と医師会を結ぶ 情報紙

都医^{ニュース}NEWS

2026

Vol.
720

地区医師会長からの一言

江東区をご理解いただくために

江東区医師会長 足川哲夫



当医師会は令和8年によりやく設立28年となる比較的新しい組織である。

平成10年に設立されるまでは、戦後の新しい行政単位としての江東区とは異なり、深川医師会と城東医師会という組織を維持していた。

しかしその深川区・城東区という枠組みを越えて、江東区は湾岸地域が発展した。

区の面積が倍増と感ずるほどであり、これに深川・城東の両地区が共同して対応する必要性が高まっていたため、当医師会設立は時宜を得たものであった。

当区はここ10年ほど湾岸地域を核とする新規開業ラッシュという国内でも大変珍しいと思われる地区であったが、ようやく一段落した感がある。

その背景となる人口も右肩上がりに増え、長く区長を務めた山崎孝明氏の「50万人を超える区となるまで発展して欲しい」との希望を超えて、現在は人口約54万人となっている。

急速な発展はさまざまな問題となって社会的対応が急務であった。若い人達が区南部の湾岸地域に次々と建設された所謂タワーマンションに住むようになると、そこで出生する多くの子ども達のための、保育園・幼稚園・小中学校が新たに必要とされ、さまざまな施設が供給不足となり、一昔前の待機児童問題を生み出し、また幾つかのマンモス校が創立された。

これらもようやく一段落ついた感がある。

しかし人口増加には新たな社会的変化も内在していた。54万人には約4万人の外国人が含まれるからである。江東区の人口の約7.4%となっている。外国人が人口の10%を超えると社会は大きく変化すると聞いたことがあるが、それがつい目の前に迫っている。多言語社会・多様性社会となることへの対応が急務となって、今後の大きな課題である。

それらとは対照的に、区北部は日本全国他地域と同様に超高齢社会である。独居の高齢者が急速に増加し、必然的に在宅医療が重要性を増した。

また若い人達とは異なる高齢者の脆弱性から救急医療の逼迫も、特にコロナ禍においては顕著であった。しかしここ1、2年はその逼迫状況もとりあえず落ちつきを見せてきている。

当医師会は第3代井上仁会長の時にいち早く公益法人となり、ここまで述べたさまざまな問題を乗り越えて、「区民の安心・安全のため」に活動している。そしてその原動力は個々の会員の経営状況に支えられている。これが怪しくなっている。

国民皆保険は、国民の重荷であるとの評価がなされて、実質的には縮小傾向にあるように感じられる。しかしそれは何よりも優先すべき、そして維持発展させるべき目標と考える世の中となってくれることを願ってやまない。